

小樽・後志におけるヒューマンストーリーの発掘と地域資源化

プロジェクト代表者：後藤 英之 プロジェクトリーダー：高野 宏康

1. プロジェクトの目的・概要

●プロジェクトの目的

小樽・後志地域では、近代以降、多様な歴史文化が展開していますが、その担い手たちが高齢化などにより年々減少し、記憶の風化が進んでいます。本プロジェクトの目的は、小樽・後志地域の人たちのヒューマンストーリーを調査・記録し、地域資源として活用することです。

2. 具体的な取組内容

●地域情報の学習および取材方法・記事のまとめ方の修得(採択後～平成28年7月)

授業(総合科目「グローバルズムと地域経済」)内で、小樽・後志地域の歴史文化および社会経済の特徴、取材方法、記事のまとめ方についての講義および、小樽市内バスツアーによるフィールドワークにより、地域社会に対する理解を深め、取材と記事作成方法を習得しました。

●インタビュー実施と記事作成(平成28年6月～7月)

小樽のまちや歴史に詳しい市内在住の23人に学生が各3～4名のチームでインタビューを実施。1500字程度の記事を作成しました。

●ゲスト講師とのトーク&ディスカッション

ゲスト講師(2名:北海道新聞記者、ライター)を招聘、取材と記事作成方法についての講演および学生とのトーク&ディスカッションを実施しました。

●インタビュー先と学生の公開座談会(平成28年12月5日、会場:三川屋)

花園エリアのインタビュー先5名と、担当学生による公開座談会を実施し、授業内容およびの成果について情報発信しました(「小樽のひとに学ぶ～花園界隈のいまむかし～」)

●インタビューと座談会をまとめた冊子発行(平成29年3月、1500部)*予定

インタビュー記事23人分と公開座談会を収録した冊子を発行します。小樽市内での配布、市立小樽図書館等へ寄贈し、地域資源として活用できるようにします。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

学生が小樽・後志の地域情報、取材方法、記事のまとめ方を学んだ上で、同地域の昭和30～40年代の歴史・社会・風俗・文化などに詳しい人にインタビューして、記事にまとめました。その成果にもとづき、インタビュー集の発行、座談会の開催などを実施し情報発信、着地型・交流型観光コンテンツなどの地域資源としての活用・定着化を図りました。



取材の様子(運河プラザカフェにて)



北海道新聞(平成28年7月14日付)

